後援会事業実施報告書

・申請教員名　蓮井誠一郎
・事業Ｎｏ．1-51
・筑波大学国際政治学ゼミとの合同ゼミ：　2024/12/22　12:30～16:10 実施
・活動内容：

ゼミ生 5 名を伴い、筑波大学に集合して先方のゼミ生 6 名とディベート形式での合同ゼミを行いました。この繋がりはおよそ 20 年近く続いており、震災やコロナなどで途切れることはあっても、すぐに復活して続けています。最盛期には、宇都宮大学、群馬大学も加わり 4 大学合同ゼミとして活動していましたが、コロナもあり、現在は 2 大学で続けています。

今回のテーマは「日本は台湾に対して平時から武器を輸出するべきか」でした。ウクライナでの戦争が長引く中で、中国が国家の中核的利益と位置づける台湾問題にも注目が集まっております。軍拡により力を増す中国と台湾との力関係にも変化が及ぶ中で、台湾有事を周辺事態と位置づける日本は、これからどのように台湾問題と向き合っていくべきか、考えさせるテーマでした。

茨城大学は肯定側になり、平時から台湾に武器輸出を行い、抑止を機能させることによって「台湾海峡の平和」を維持すべきというスタンスで議論に臨みました。

ディベートには不慣れなこともあり、せっかく用意した資料を使いこなすことができないなど、いくつかの失点を重ねてしまった結果、ゲームとしては負けになりましたが、学生たちはふだんできない真剣な議論を楽しんだようでした。

中台問題は他人事ではない問題で、日本の海上輸送路への脅威だけでなく、半導体の供給という重大な要素をはらんでいます。熊本などに TMSC が新工場を建設したのもリスク分散の必要性が高まったからに他なりません。自分たちが戦争に巻き込まれるかも知れないというリスクを念頭に置いた議論は、ゲーム上の立場と自身の本音との間で揺れる学生の気持ちを垣間見せるものでした。

合同ゼミの後には懇親会も開催され、普段交流のない学生同士の貴重な親交の場となりました。今後もこの合同ゼミは継続したいと思います。引き続きのご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

以上

開始前の緊張した様子

立論開始

試合後の講評